

学校運営

<発表題目>

コミュニティ・スクールに一步踏み出す
～目標づくり・組織づくり・活動づくり～

魚沼市立小出小学校

佐藤 茂幸（63年度）

<主張>

魚沼市は令和4年度から全市でコミュニティ・スクールが導入・開始された。それに先駆けて、本校は令和3年度に市より指定を受け、コミュニティ・スクールモデル校として手探りで実践を進めてきた。その一端を述べる。

まず、初めに小出小学校コミュニティ・スクールのビジョンを「大きな学校」「子どもサポーター」「元気な小出」の3つを描き、保護者・地域に周知することを主眼としてきた。

<目標づくり>

家庭・地域・学校間の目標共有が大切である。地域教育懇談会、学校評議員会で意見を伺い、全保護者アンケートで「求める子ども」を、5・6年生に「なりたい自分」について児童アンケートを実施した。保護者・児童の目標が共通していたことから求める子ども像を「よくなるとうとする子、たすけあう子、つづける子」と設定した。

<組織づくり>

従来からの学校協働ボランティア、青空みまもり隊、花おうえん隊を継続し、学校運営協議会と地域学校協働本部を新たに立ち上げた。地域をよく知る前任校長との相談をもとに委員を選定し、「校長の求めに応じて意見を述べる」学校評議員のメンバーを刷新した。

<活動づくり>

活動の3本柱「地域から学ぶ活動」「地域に打って出る活動」「地域とともにつくる活動」に大きく分類し、様々な活動に取り組む。日常的な教育活動支援はもとより1学期に「地域に学ぶ日」、2学期に「地域交流遠足」、3学期に「青空子ども会雪まつり」を設定した。